

校長室より

令和6年4月20日(土)

「気持ちを奮い立たせる言葉」



先日の大相撲春場所で、初優勝を果たした尊富士(たけるふじ)。24歳の若さでの優勝はもちろんのこと、新入幕として110年ぶりの優勝はこれまでの記録を大きく塗り替えたものでした。

さて、この尊富士は優勝直前の14日目の取組で右の足首を痛めてしまいました。取組後、車いすに乗り、病院へ直行した姿がテレビから流れたときには、誰もがもう優勝はきびしいと思ったに違いありません。

尊富士は、千秋楽(15日目)の休場を考えたということですが、兄弟子の横綱・照ノ富士から「お前ならやれる。記録ではなくて記憶に残りたいんだろう。このチャンスはもう戻ってこない。」と言われて出場することを決めたということです。

尊富士は「スイッチが入って第二の自分がいるみたいに急に歩けるようになった。自分で自分が怖かった。」とそのときの気持ちを語っています。

そして、初優勝を決めた千秋楽の一番については「気持ちで負けたくなかった。自分の手で優勝をつかみたかったので自分から動こうと思っていた。」と振り返りました。

私たちも、心や体が元気でなかったり、うまくいかなかったりしたときにがんばろうと思っても、ダメなときがあります。そんなときに「誰か」のちょっとした一言や笑顔でやる気がわいてきたり、もう1回やってみようという気持ちになったりするものです。そんな「誰か」に私たちもなりたいたいですね。